

氏名 貴 谷 光

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 博 乙 第 2164 号

学位授与の日付 平成 2 年 9 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学位論文題目 気管支喘息の病態に関する研究

第 1 編 酵素免疫抗体法によるカンジダ特異的 IgG 抗体の測定と
評価第 2 編 カンジダ抗原による末梢血好塩基球からのヒスタミン遊
離

論文審査委員 教授 太田善介 教授 辻 孝夫 教授 石井 明

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

酵素免疫抗体法によりカンジダ抗原特異的 IgG 抗体を測定し、気管支喘息における IgG 系の関与について検討を行なった。気管支喘息におけるカンジダ抗原特異的 IgG 抗体値は、健康人と比較してやや高値であり、加齢とともに上昇し、遅延型皮膚反応陰性例で高値を示し、沈降抗体とは密接な相関があることが示され、これらの結果からは、カンジダ特異的 IgG 抗体とⅢ型、あるいはⅣ型反応系との関連が示唆されると考えられた。

カンジダ抗原の特徴を明らかにする目的で、ヒスタミン遊離についても検討を行なった。気管支喘息の 26.7% にヒスタミン遊離がみられた。カンジダによって感作される症例は、アトピー素因の強い若年発症例と、血清 IgE 値の低い中高年発症例の 2 群に大きく分けられた。IgE 系反応の一つであるヒスタミン遊離試験に対して、IgG 抗体は促進的にも、抑制的にも作用する可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

第一編では酵素免疫抗体法によりカンジダ抗原特異的 IgG 抗体を測定し、気管支喘息における IgG 系の関与について検討を行ったところ、この抗体とⅢ型、あるいはⅣ型反応系との関連を示唆する結果を得た。また第二編ではカンジダ抗原の特徴を明らかにする目的で、ヒスタミン遊離についても検討を行った結果気管支喘息の 26.7% にヒスタミン遊離がみられた。これらの結果は気管支喘息におけるカンジダ抗原の重要性を示すも

ので価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。